

## トラック輸送情報（平成23年8月分）

平成23年11月9日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

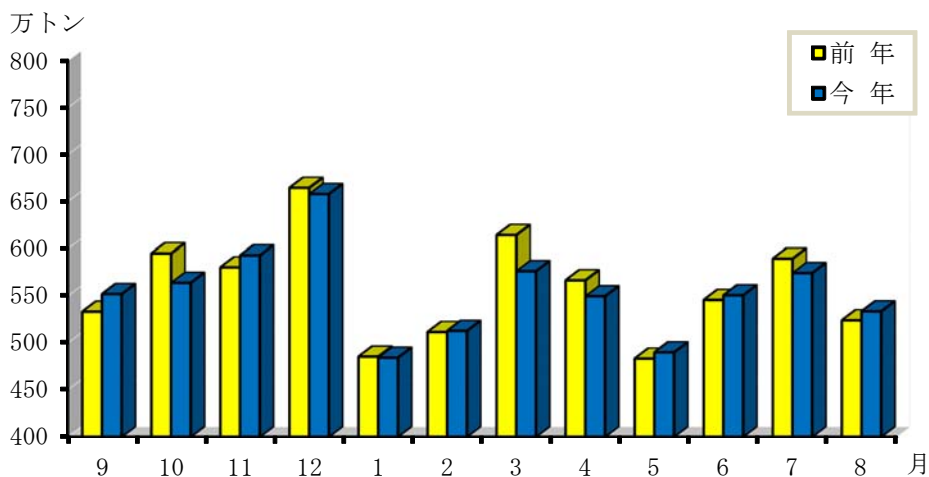
### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

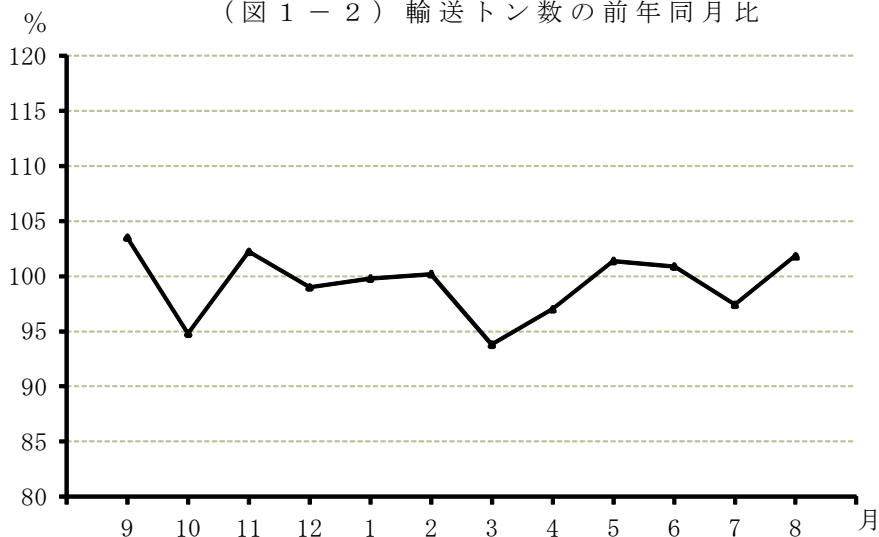
調査対象26社の本月の輸送量は、5,339,147トンで、前月と比べ総輸送量が約41万トン減少したため、前月比92.9%（季節調整済み103.1%）となり、前年同月との比較では、約10万トン増加したため、前年同月比101.8%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は22.9日で、前月と比べ0.1日減少し、前年同月との比較では、0.6日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、233,151トンで、前月と比べ約1万7千トン減少したため、前月比93.3%となり、前年同月との比較では、約1万トン増加したため、前年同月比104.5%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



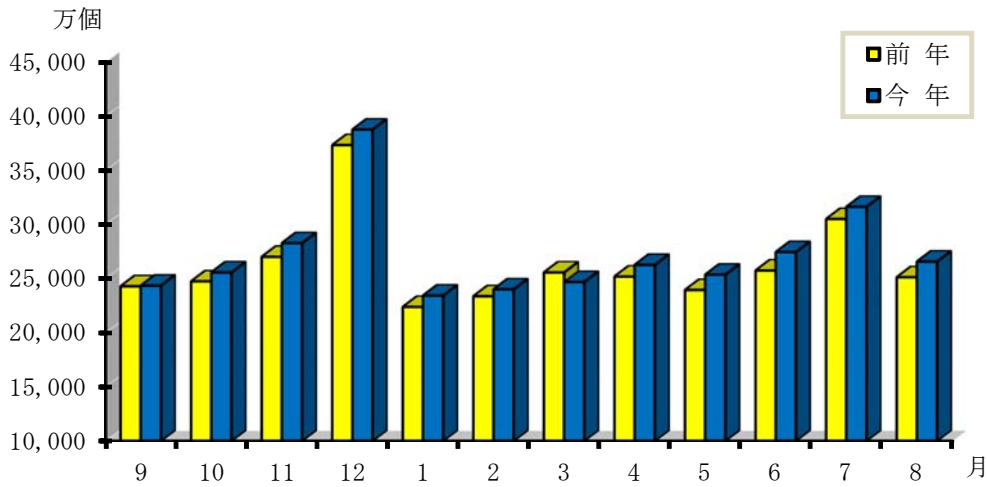
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



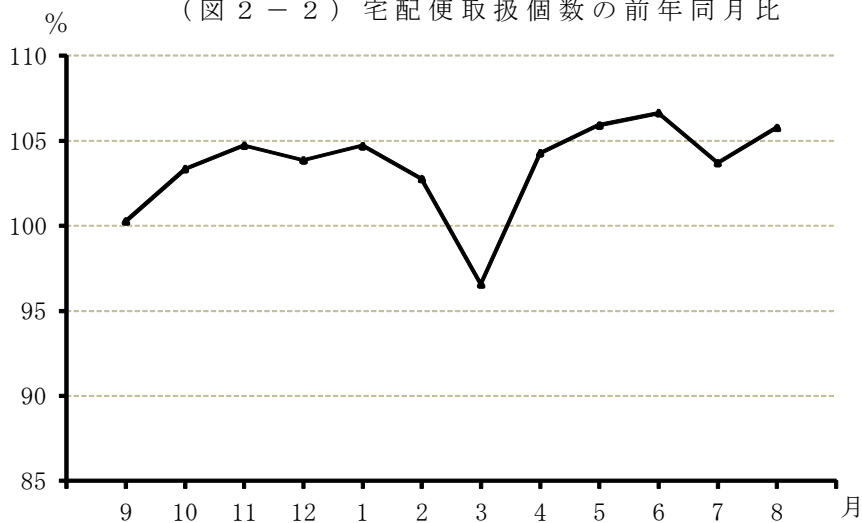
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、265,862 千個で、前月と比べ 約 5,058 万個減少したため、前月比 84.0% (季節調整済み 101.6%) となり、前年同月との比較では、約 1,445 万個増加したため、前年同月比 105.7% の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減がすべて品目に共通して見られたほか、倉庫から出る貨物減が「機械」、「食料工業品」、「日用品」で見られた。「機械」、「食料工業品」の主な減少地域は関東地方、中部地方、近畿地方等であった。

前年同月と比べると、工場・生産地や倉庫からの貨物増等が「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」で見られた一方で、商社・問屋からの貨物減が「日用品」で見られた。「化学工業品」、「繊維工業品」、「食料工業品」の主な増加地域は、北陸信越、近畿等であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		1	11	4	2			
							野菜	中国	4
	金属製品		2	16	3				
	機械			10	10	1			
							電気機械、機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 8
	化学工業品		1	12	9				
							合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、中国	4
			1	17	4				
				15	5				
						製造食品	東京、関東、中部、大阪	4, 7	
		2	11	9					
						書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	東北、神奈川、関東、全国	4, 5, 7, 8	
	3	1	11	5	1				
						宅配便			
							神奈川、関東、大阪	4	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	3	13	1				
	金属製品	1	4	15		1		東京、関東、中部、中国	4
	機械		7	9	4	1	機械部品		4, 7
								東京、関東	
	化学工業品		8	12	1		化学薬品、合成樹脂	神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 7
		4	16	2		その他の繊維工業品	北陸信越、愛知、近畿、中国	4, 7	
		6	11	3			東京、北陸信越、近畿	4, 7	
	1	4	12	4	1	玩具	近畿、中国		
						衣服、その他の日用品	全国	5	
		7	10	1	3				

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 804 社／調査対象事業者数 1,049 社）の輸送量は、前月比 99.8%、前年同月比 104.4%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	104.4 %	113.3 %	101.9 %	102.2 %	102.4 %	99.4 %	94.4 %	100.7 %	103.6 %	105.8 %	101.5 %	
前 月 比	99.8 %	103.2 %	99.6 %	96.7 %	101.1 %	96.3 %	93.1 %	97.3 %	100.2 %	102.3 %	98.5 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より、一部の事業者から回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比103.2%、対前年同月比113.3%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「機械」、「その他の窯業品」が、倉庫への入出庫の増加等により「化学肥料」が、工場・生産地での需要増等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要減等により「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比99.6%、対前年同月比101.9%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」が、被災地における建設関連の需要増等により「セメント」が、また被災地におけるガレキの搬出により「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比96.7%、対前年同月比102.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月が増加傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比101.1%、対前年同月比102.4%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「木材」が、季節的需要増により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、倉庫への入出庫の減少により「穀物」が、季節的需要減等により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比96.3%、対前年同月比99.4%であった。品目別では、季節的需要減により「その他の農産品」が、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比93.1%、対前年同月比94.4%であった。品目別では、季節的需要減により「その他の農産品」、「化学薬品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したほか、「機械」、「日用品」等の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比97.3%、対前年同月比100.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響等により「穀物」、「その他の農産品」が、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」、「その他の製造工業品」が、景気の影響等により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比100.2%、対前年同月比103.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「穀物」、「木材」、「その他の石油製品」、「化学肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比102.3%、対前年同月比105.8%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物増等により「畜産品」、「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月および以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比98.5%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「その他の化学工業品」、「金属くず」が、建設関連の需要増により「金属製品」が、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸入貨物減により「木材」が、建設関連の需要減により「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>